

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 2 月 24 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/24 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	14.4 °C	106.9 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 0.0 m ³ /h	23.8 °C	3.17 kPa g	A系： 0.02 vol%
		給水系：約 4.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
3 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	22.0 °C	0.22 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.07 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/24 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1 号機	循環冷却システム	運転中	10.5 °C
2 号機	循環冷却システム	運転中	9.6 °C
3 号機	循環冷却システム	運転中	7.9 °C
4 号機	循環冷却システム	運転中	13.0 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

- ・H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。
- ・H26/2/24 3号機使用済燃料プール代替冷却系の二次系冷却塔のろ過水による散布水停止について、現在使用している冷却塔B系をA系に切り替えて行う予定であったが、冷却塔A系のファンベルトに緩みが確認されたため中止。二次系冷却塔の散布水停止については、冷却塔A系のファンベルト調整が整い次第実施予定。
- ・H26/2/24 10:33 6号機補機冷却海水系を全台停止することに伴い、使用済燃料プール冷却系を停止。使用済燃料プール冷却系停止時の使用済燃料プール水温度は 16.7 度。2/24 12:41、残留熱除去系による非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)を開始。2/24 13:10 の使用済燃料プール温度は 17.3°C。使用済燃料プール冷却系停止時(～2/28)における使用済燃料プール水の温度上昇率評価値は 0.4°C/h。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2 号機	2 号機 タービン建屋	→ 3 号機タービン建屋	2/22 10:37 ～ 移送実施中
3 号機	3 号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 (雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	1/24 14:37 ～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/24 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

- ・H26/2/26 1号機原子炉建屋3・4階について、被ばく線量低減に配慮した上で、「シェル壁・プール壁」を中心にビデオカメラの撮影を実施する状況調査を実施予定。
- ・H26/1/29～凍結管を設置するための削孔については、堀りあがった温度測定用の孔にカメラを挿入して、トレンチ内部状況を再度、慎重に確認したうえで削孔開始することとしていたが、トレンチ内部の状況が確認できたことから、凍結管を設置するための削孔を実施中。

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・H25/12/10 10:10～汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。
- ・H26/2/19に確認されたH6エリアタンク上部からの水の漏えいについて、漏えいの原因は、淡水化装置処理後の水の受け入れ予定ではない当該タンクに接続されている弁が開いていたことにより、タンクに水が入り上部天板部から漏えいが発生したものと推定。閉まっているはずの弁が開いていたことについては、引き続き調査する。なお、漏えい箇所の土壌について線量測定を行った結果、地表面から3cm離れたところで70 μ m線量当量率で最大約900 mSv/h(ベータ線)、1cm線量当量率で0.1 mSv/h(ガンマ線)であったことから区画を行った。漏えい範囲について、現場における詳細調査の結果、以下の通り特定。

【漏えい範囲】

- ・H6タンクエリア堰近傍(C1タンク南方向沿い)；約3m×約40m
 - ・電気ケーブルが収納されているU字溝(近傍道路を跨いだU字溝)；約30m×約1m
 - ・淡水化装置(蒸発濃縮)エリア；約36m×約37m^{*1}
 - ・淡水化装置(蒸発濃縮)エリアの東側の一部及び南側にある側溝^{*2}；長さ約55m×幅約0.3m
- ※1：範囲を変更(約20m→約37m)。
 ※2：範囲を追加。当該側溝は閉塞されており、他箇所への流出は確認されていない。当該箇所の漏えい水については、2/21にバキューム車により回収。

<タンクエリアパトロール実績(2/23)>

- ・高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は2/24 0:00時点で約8,289m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<移送関係>

- ・2,3号機東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な排水設備)からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・H26/1/29～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔(No.1-16(P))からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。
- ・H26/1/30～ 地下貯水槽 No.1～3 における貯水槽内部の残水について、H1 東エリアタンクへの移送を適宜実施。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上